

**大粒な米づくり
で、食味向上！**

令和元年
夷隅地域水稻生育情報
第 2 報

令和元年6月19日
夷隅農業事務所
改良普及課
TEL 82-2213

- ・生育の進みが早く、草丈や茎数も旺盛な傾向にあります。
- ・いもち病やカメムシ対策をしっかり行い、収量アップを目指しましょう

1. 【今年の生育状況について】

夷隅地域における主要3品種の生育状況は表1のとおりです。

幼穂形成期(幼穂1mm、出穂前25日)は例年と比較してふさおとめでは平年並ですがコシヒカリで5日程早まっています。

表1：定点調査ほ場の生育状況（6月18日現在）

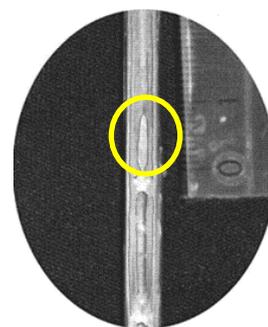
品種名	調査場所	田植え日	平年比			幼穂形成期
			葉齢の進み	草丈	茎数	
ふさおとめ	いすみ市島	4月16日	やや遅い	やや長い	並	6月14日
ふさこがね	大多喜町下大多喜	4月27日	並	並	多い	6月21日（予測）
コシヒカリ	いすみ市松丸	4月18日	並	やや長い	多い	6月17日

2. 【適期に穂肥施用をするために】

6月中、下旬頃より、カッター等で主茎を縦に割って幼穂長を確認することで、出穂までの日数が推測できます。幼穂長1mm程度で出穂まで25日、1cm程度で出穂まで18日です。

安定した収量の確保や倒伏を防ぐために、**適期に穂肥施用をすることが重要**です。登熟期間の短いふさおとめは、出穂前25日～18日に、ふさこがね、コシヒカリは出穂前18日に施用しましょう。

前述の主要3品種の施肥量は、窒素と加里をそれぞれ成分量で各3kg/10aが目安となっています。



幼穂長1.0cm時の断面図

3. 【病害虫対策について】

(1) いもち病

いもち病は 25～28℃、低日照多湿で発生が多い病気です。
 上位葉で発生する「葉いもち」が、「穂いもち」に移行して
 減収を招くため、早い段階での防除が必要です。6月12日付け
 病害虫発生予報では、**やや多**と予想されています。



葉いもち病 (JPP-NET より引用)

(2) 紋枯病

紋枯病は 30～32℃、多湿で発生が多い病気です。
 多肥栽培を行っているほ場では発生リスクが高まります。
 6月12日付けの病害虫発生予報では**並**と予想されていますが、
 多発すると大幅な減収を招くので、今後の情報に注意して下さい。



紋枯病 (JPP-NET より引用)

表 2 : いもち病・紋枯病の主な防除剤

薬剤名	対象病害虫	使用量 (/10a)	使用方法	使用時期・回数
フジワン粒剤	いもち病	3～5kg	湛水散布	葉いもち：初発7～10日前 穂いもち：出穂10～30日前収穫 30日前まで 2回以内
モンカット粒剤	紋枯病	3～4kg	湛水散布	出穂10～30日前 収穫14日前まで 3回以内

(3) カメムシ類

斑点米カメムシ類対策として、出穂2週間前までに畦畔の草刈りを行うことが重要で
 す。また、ほ場内のヒエやホタルイも誘引源となるので、事前に除草剤で防除しましよ
 う。穂ぞろい期に斑点米カメムシ類が

水田内に多発している場合は、
 薬剤防除を行きましょう。なお、
 6月12日付けの病害虫発生予報
 では、葉を食害するイネクロカメムシ
 の発生が**やや多**と予想されています。

表 3 : カメムシ類の主な防除剤

薬剤名	使用量 (/10a)	使用時期・回数
エルサンパッサ 粉剤20DL	3～4kg	収穫7日前まで 2回以内
トレボン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで 3回以内
スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで 3回以内